

ギャンブル依存症と私

Cさん

私は、昭和46年 ごく普通な家庭で生まれ育ちました。小さい頃から、特別裕福ではないけれど、貧乏だと思った事ありません。勉強やスポーツは、可もなく不可もなくといった少年でした。

最初のギャンブルは、近所のパチンコ屋でした。きっかけは、18歳になったから、という程度で、少し大人なゲームセンターに行く感覚でした。その頃のパチンコ屋は、店の半分以上が平台で、1回のギャンブルで3千円も使えば、使い過ぎたと後悔をするギャンブルでした。店にいる間は、楽しくギャンブルしていましたが、その時付き合っていた彼女とのデートやアルバイトの方が、楽しく感じていました。

アルバイトから、就職をし、色んな仕事につきましたが、仕事は一生懸命働いていました。上司や、お客様から褒められたり、評価されたりする事が嬉しくて、寝る間も惜しんで働きました。

ただ、失敗してしまった時や、評価されていないように感じた時に、嫌気がさし、サボってパチンコ屋に入るようになってきました。その頃はまっていたギャンブルは、パチスロで、ある程度の技術介入が可能だと思っていました。目押しや、台選びを真剣に行えば、勝てる、と思っていました。

大学を2年で辞めてしまい、酪農・家電量販店店員・冷凍食品の営業と転職をしました。営業職は、自分の裁量次第で、時間や、給料が自由になると考えていました。新規顧客を獲得した時や、売上目標を達成した時など、充実感を味わい天職だと思っていました。

ある日、パチスロをやり過ぎて給料日前に所持金がなくなっていました。電車の中刷り広告などで知り、「1週間無金利」の消費者金融に借金をしました。無人契約機で5万円を借りて、給料日に5万円返済しました。悪い事をしている気がしたので、ドキドキでした。その後、消費者金融で借金をしても返済すれば問題ない、と思うようになっていきました。その頃、大量獲得のスロットにはまっていたので、限度額50万円まで借りるのに、3か月もかかりませんでした。限度額までいくと、2件目・3件目と消費者金融の借金が増えていきました。まだ独身で実家に住んでいたもので、なんとかなると思っていました。

借金の総額が200万円位になった時、1件の支払いが遅れてしまい、実家に督促状が来てしまいました。私の父は、総務部で働いていたので、消費者金融で借金をする人の事をよ

く知っていました。「借金の全てを教えなさい」と言われました。私は、1件30万円を残して、両親に借金の肩代わりをしてもらいました。1件残したのは、それくらい自分の力で返済できると思っていました。結局1件残した借金の返済と、とまらないギャンブルで2件・3件と借金が増えてしまいました。

27歳、2度目の借金の肩代わりを両親にしてもらった後、当時付き合っていた彼女に子供が出来ました。借金の肩代わりをもらったばかりだし、人の親になる自信なんてありませんでしたが、結婚をしました。形だけの結婚式を挙げて、夫婦生活がはじまりました。すぐに産まれてきた子供は、男の子でした。私と同じ、アトピー性皮膚炎と小児喘息を持っていて、私の良くない体質を受け継がせてしまったな、という罪悪感からか、おむつを替えたり、お風呂に入れたり、積極的に育児に関わりました。男の幸せは、家族を大切に、仕事を頑張る事だと思っていましたが、営業をサボってギャンブルをするのは、変わっていませんでした。

3年後、2人目の男の子が産まれました。その子が3歳になるまで、ギャンブルで借金を作っては肩代わりをしてもらおうという事を繰り返しました。肩代わりをもらって数日は、「ギャンブルは、やめよう」と思っていました。しかし、自分の問題は、お金の使い方だと思っていたので、「少しだけならいいだろう」と、すぐにギャンブルに行くようになってしまいました。営業をサボってパチンコ屋に行っていたので、時々、このままではダメだ、と考え、本屋で「出来る営業マンになるには」や、「営業マンのスケジューリング」など自己啓発の本を購入し、明日は、パチンコ屋には行かずに営業を頑張ろうと思いましたが、翌日ギャンブル出来るお金があれば、「今日は最後のギャンブル」だと考え結局パチンコ屋に入っていました。

両親に4回、妻、祖母、義理の父、都合7回 総額2千万円以上の肩代わりをしてもらってもギャンブルはとまりませんでした。最後の肩代わり後に、父親と貸金融業協会に行き、貸出自粛の登録をしてもらいました。その後しばらくは、お小遣いの中でギャンブルをやっていました。

34歳、ある営業先から、少し早い集金をしました。集金予定にはなっていなかったのに領収書を用意していませんでした。金額は20万円位でしたが、「名刺の裏書で、構わないよ」と言われ、後日領収書を持ってきます、と言って集金してしまいました。集金した20万円を会社に入金するのは、来月末で構わない、と考えが出てきて、ギャンブルで増やしてから会社に入金すればいいや、という考えになりました。その頃のギャンブル性の高いパチスロは、10万円単位で勝ったり負けたりしました。「いつも少ない小遣いでパチスロをやっているから勝てない。資金が20万円あれば勝てる」と思いました。集金をした会社から

一番近いパチンコ屋に入りました。私は、パチンコ・パチスロをしている時、やらなければいけない事や、考えなければいけない問題から目をそらす事が出来ました。無心でギャンブルをやりながら、なんとかなる、と考えていました。本当は、家族に肩代わりをしてもらい助けてもらっただけなのに、前回もなんとかなったから今回もなんとかなる、と考えていました。結局、手をつけた20万円は全てギャンブルでなくしてしまいました。このままではまずい、と考えましたが、会社から白紙の領収書の束を手に入れると、他で集金して、開けてしまった20万円を埋めればいいや、という考えになりました。

その後、1年間で、300万円の横領をしました。会社に発覚してしまい、両親・妻も知るところとなりました。両親は、ギャンブル依存症の施設について知っていて、私はギャンブル依存症だと言われました。妻は、子供たちを連れて離婚となりました。

大事だと思っていた家族も、仕事もなくなるのであれば、ギャンブルを目一杯やって自殺をしようと思いました。妻が離婚後、引っ越し用に用意していた50万円を夜中に盗んで失踪をしました。自分の住んでいたアパートを振り返り、ギャンブルで身を持ち崩す、というのは、私みたいな事を言うんだなと思いました。失踪をして朝からギャンブル、閉店したらカプセルホテルや、ネットカフェで寝ました。50万円で1カ月半もちました。所持金が底をつき、自殺するなら、前から決めていたビルの屋上に行きました。しかし、屋上から下を見ると怖くなり、その場で3日程ウダウダしていました。4日目に空腹に耐えられなくなり、歩いて実家に向かいました。失踪は、しましたが、そんなに遠くには行けませんでした。実家に向かう道で「もう自分一人では、生きることも、死ぬ事もできない。何でもいいから助けてくれ。」と思いました。

実家に着くと、両親が迎えてくれました。空腹を訴えたのでトーストとリンゴジュースとコーヒーを母親が出してくれました。それを食べるように食べました。「施設に行こう」と両親が言いました。まだ玄関にいました。お風呂ぐらい入れると思っていましたが、そのまま数枚の着替えと共に車で近くの駅まで送られました。

ギャンブル依存症からの回復施設では、似たような体験をした10数名の仲間との共同生活になりました。午前・午後、施設でのミーティングと、夜は自助グループでのミーティングと、1日3回ミーティングの毎日です。一番最初のミーティングでは、家族への罪悪感から泣きながら自分のして来た事を話しました。自分の正直な話をして、仲間の正直な話を聞く、というミーティングを重ねていくうちに、「あんな酷いギャンブルをしていたのは自分だけではなかった」という事や、「自分一人でギャンブルは、やめられない」という事が分かってきました。施設や自助グループには、色んな年齢・性別の仲間がいました。施設での生活が半年ぐらいになると、就労プログラムになりました。施設の寮で仲間と生活はして

いますが、昼間はアルバイトで、夜自助グループに通うというプログラムでした。実際、私は、ギャンブルで生活や家族をめちゃくちゃにしましたが、ギャンブルさえしなければ、まともだ、と思っていました。しかし、ギャンブルのない生活は、私にとって簡単なものではありませんでした。仕事では同僚と比べて「自分は、こんなに頑張っているのになぜあいつと同じ時給なんだ」と怒りがわいてきました。同じ施設の仲間とも比べて「あいつよりは早く施設を卒業してやる」と無理をしました。

施設を卒業し、仕事もアルバイトから、就職活動をして、正社員になりました。最初の3年間は、毎日夜、自助グループのミーティングに行きました。

私は、ギャンブルをして自分の人生をめちゃくちゃにしようとは、考えていませんでした。家族も学校も仕事も大事だと考えていました。しかし、ギャンブル依存症の私は、自分一人では、ギャンブルをやめる事が出来ませんでした。また、18歳からギャンブルをやってきたので精神的に未熟です。そのため、仲間や家族に迷惑をかけてしまう事があります。自助グループでいただいた12ステップを使い、ギャンブルのない健康的な生活を続けていこうと考えています。